

## 憑きもの再論

岡田靖雄

今回酒井シヅさんにお手伝いして、南博編『近代庶民生活誌 第二〇巻 病氣・衛生』（三二書房）を編集した。酒井さんは癩・伝染病関係をうけもたれたので、わたしは精神科の、未公開資料および、ほとんどかえりみられなかった論文をあつめた。

まず憑きもの資料として、呉秀三の広告に応じて主として広島県下の医師がよせた未公開資料と、無視されてきた論文としては島村俊一および荒木蒼太郎による、ともに現地調査の報告をいれた。わたしの論文「島村俊一——悲運の精神病学者——」については、京都府立医学専門学校校長として島村先生は立派な仕事をしたではないか、との声もきいた。わたしは、その最大の仕事を無視されてきた精神病学者という非運をいっただけだが、島村先生にはこれどころでいだけそうである。

つぎに精神病の民間療法についての資料をあつめた。私宅監置については、呉秀三・榎田五郎の論文の基になった一つ、

齋藤玉男による群馬県および山梨県の調査報告の原文をいれた。精神科病院の実況については、巢鴨病院入院患者の手記や、一九〇三年に讀賣新聞が連載した瘋癲病院暴露記事などをおさめた。これらのほかに、結核に関して石原修「女工と結核」をいれた。

呉があつめた資料の大部分は、「狐憑き研究史——明治時代を中心に——」に紹介してあるが、そこにつかわなかった憑きもの裁判の記録が二つある。その一つ（広島地方裁判所一八九一年判決）の被告人は、広島県山県郡の医師およびその妻である。老耄の母を狸憑きと信じたかれは母を、狸をおいだすため棒および火のはいった十能でうって、火傷により母を死にいたらせた。二人の精神鑑定は、二人に異常はないが、二人は母に狸がついたとかく信じていた、とした。そして判決も、母をおいだそうとしたもので母を傷害する意図はもっていなかったと、二人を無罪にしている。この医師は某藩医だったことが山県郡医師会により確認されている。

さて、日本は憑きもの文化圏にあり、しかも今回あつめた憑き資料は、つく動物は特定の家につたわるとする持ち筋が信じられている地帯のものである。つく動物は人狐、犬神、外道、とうびよう、狸などとさまざまであるが、憑きの様相はそうかわらない。その定型は、患者はかるい病気にかかって、多食・多弁などいつもとちがった状態を呈する↓といつめられて（せめられて、祈禱されて、いためつけられて）「持ち筋の家からきた」（うらやましき、物の惜しさなど比較的かるい怨念

から)と告白↓比較的すこしの物をもらつて、あるいはかえし  
てもらつて、かえる↓持ち筋の家まできてたおれると、憑き  
ものはなれる。持ち筋の人の直接の意志には関係なく、憑  
きもの動物がその人の怨念をいわば代弁する形で行動するの  
である。つかれた人とはときに、僧や神官がくるのを千里眼視  
し、しらぬはずの経文をよむなどの異能をしめす。これらの  
報告はいづれも医師が自分の見聞をしるしているものであつ  
て、前記被告人の医師だけでなく、一般の医師(尼子四郎もそ  
の一人である)もこういうことを信じていたのである。

榊原は狐憑きについて、一、周囲がそう判断する、二、自  
分の体についている、周囲にいたるとの妄覚、三、自分が狐に  
なつたとの妄想をもつてそのように行動するという化身妄想  
(獸化妄想)、の三段階があるとし、その三、が真正の狐憑症  
であるとした。ヨーロッパ世界で有名な狼人は、人が狼に変  
身して人をおそう、というものであつて、榊の狐憑症はこの  
狼人にならつてゐる。しかし呉は、獸化妄想とはべつに憑依  
妄想をのべ、そのなかに狐憑証(榊)をいれている。

ところで現在の教科書には、ついた神、動物のように行動  
するの憑依妄想の典型例である、とかかれてゐる。しかし、  
今回あつめた憑きもの例で、その動物らしく行動するもの(獸  
化妄想という程度のもの)はすくない。「どここの家からきた人狐  
で、こういう怨みがあつてきた」とは告白するが、前述のよ  
うに、その怨みはつく動物のものであることはごくまれで、  
持ち筋の人のものである。つまり、ここにでているのは、比

較的せまい地域での人間関係のもつれである。どうも一口に  
憑きものといつても、単発例と、こういった持ち筋地帯のも  
のとは、その現われ方がかなりことなつてゐるようである、い  
ずれこの点をくわしく比較検討したい。

(一九九五年一月例会)

### 帝国大学医学部歯科の軌跡

榊原 悠紀田郎

現在全国には大学医学部、医科大学は八〇あるが、その中  
で歯科部門をもつてゐるものは六一である。なお医学部と並  
んで歯学部のおかれてゐるものが一四ある。

しかしこれらの歯科の設置はきわめて多様な経緯で創設さ  
れてゐる。それについてまず国立大学医学部を中心に検証し  
た。

#### 一、帝国大学医学部創設の経緯

まずはじめに国立大学医学部の創設の経緯を検証する。

国立大学医学部には現在でも「旧帝、旧六、新八、その他」  
という見えない一種のランク付けがあるといわれているが、  
その旧帝、帝国大学医学部について検討する。

帝国大学は一九四六年四月の官制で、東京・京都・東北・  
九州・北海道・大阪・名古屋の七つがあるが、そのすべてに  
医学部はおかれてゐる。しかしその創設の経緯はきわめて多様